

# 「河童の秘薬」

牛久市市制施行40周年を記念し、牛久市に伝わる民話や伝承をまとめた「牛久むかしばなし」を連載開始！改めて市にゆかりのある物語たちを読み返し、郷土愛を深めましょう。また、お話の中で牛久市との繋がりがや楽しい発見も取り上げていきます。全8話をお楽しみに♪



問 広報広聴課  
☎内線3221、3222

その昔、良庵りょうあんという医者のみならいをしてる人がいました。

良庵は、有名な先生の弟子になり、修業にはげんでいました。そしてある日、きびしい修業を終え、なつかしいふるさとへ帰ることになりました。

良庵が江戸をたつて二日目のこと。行く手に牛久沼が見えてきました。

「あぁなんとすばらしいながめだろう」

沼からのすずしい風に、ひと休みすることにしました。

遠くには、筑波山が見えます。良庵は、草の上に横になりました。

「あーあ。これはゆっくりしてしまつた。さて帰りを急ごう」

良庵が起き上がると、草むらにきみょうなものが落ちていました。

「おや、これは何だろう？」

良庵は、それを拾いあげ、家路を北へ北へと急ぎました。

良庵が家に帰ったその夜の事です。

トントントントン…誰かが家の戸をたたく音がしました。

「こんな夜更けにいったい誰だろう？」

良庵はおきあがりました。

すると、小さな老人が、音もなく、風のように入ってきて、良庵の前にチヨコンと盛りました。

「わたしは牛久沼の河童です。先日あなたが拾われたものはわたしの手です。

あの日、畑にきゅうりを盗みにゆき

ワナにかかってしまったのです。

牛久沼は、水がきれいでたくさん魚がいます。

そして畑には、わたしたちの好物がいろいろある

河童の天国なのです。ちかごろ うわさを聞いて

あちこちの河童が牛久沼にあつまつてくるのです。

ところが、河童がふえすぎてしまい、食べ物を取りあいを

するようにになりました。なかには ひどい悪さを

するものもいて、たまりかねた村人が

ワナをしかけるようになったのです」

老人は手をおとしたときのことを思い出したのか、ブルルツと身ふるいをしました。

「いまさら、手がくつつくかね？」

良庵は、老人の手を見ながらうたがわしそうに聞きました。

「それはだいたいようぶです。わたしどもには、代々伝わる秘密の薬があります。」

これを塗ればどんなケガでもたちどころに治るのです」

老人は医者もおどろくようなことを言うのでした。

「おねがいです。手を通していただけませんか」

何度もたのむ老人の姿に、良庵は手を通してやることにしました。

「ありがとございます。このおれに秘薬の作り方を

かならずお教えします……」

そう言うと、老人は霧のように消えてしまいました。

何日かすぎて、良庵の前に老人があらわれました。

「おかげさまでほら、このとおり元にもどりました。

さあ、これが約束の秘薬の作り方です」

老人は、良庵に巻き物をわたしました。

さっそく良庵が巻き物のとおりで作ってみると、黒くてねばりのある薬ができました。

この薬をつけると、切りきずはれものやけどそのほかどんなケガでも治りました。

良庵は、何にでもきくこの薬を「万応膏まんおうこう」と名づけました。

万応膏のうわさは、口から口へと伝わり、人々の間にひろまりました。

そしてたくさんの方が、この河童の秘薬に助けられました。

そのうち牛久沼では、いつのまにか畑のワナがとりさられ、泳ぎにゆく

子供たちが、河童のおみやげにきゅうりをもってゆくようになりました。

おわり



「牛久のむかしばなし 河童の秘薬」より  
（「牛久の昔話」編集委員会・編集、武川秀男・絵 牛久市立図書館発行 1990年）

## 牛久は河童のまち

河童にまつわる伝説が語り継がれている牛久。河童のモニュメントをはじめ、「かつぱのキューちゃん」や「うしくかつぱ祭り」「かつぱ号」などまちの至るところに河童が存在しています。

どこにいる河童がわかるかな？  
答えは次回7月1日号「河童松」で



市内の河童の情報を  
お寄せください！

上記以外で市内に河童(モニュメントや看板など)がいましたら、ぜひ広報広聴課まで情報をお送りください！  
【あて先】☐ kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp

### 牛久沼の河童を

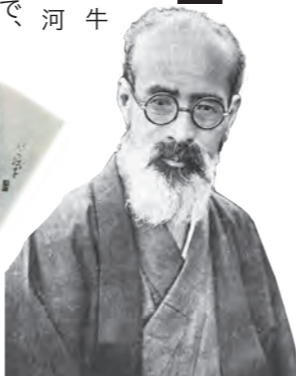
#### 有名にした小川芋銭

明治から昭和初期にかけて活躍した画家小川芋銭は、牛久沼のほとりに居をかまえ、河童の絵を数多く描いたことで、「河童の芋銭」か「芋銭の河童」と言われるほど河童とともに親しまれました。

芋銭が書いた「河童百図」第八十九図にも河童と妙薬が登場しており、芋銭の身近にも「万応膏」があったのかもしれない。



小川芋銭『河童百図』より



### 良庵は実在した？

このお話は、牛久沼の河童が伝授した薬として伝わる茨城県大宮町(現常陸大宮市)、真木家の家伝業「岩瀬万応膏」にまつわる話ともなっています。

主人公の良庵先生は真木了本まきりょうほんといい、紀州の外科医・華岡青洲はなかせいしゅうのもとで医者の修業をした人物です。「河童の秘薬」に似た伝説は全国各地にあります。茨城県内では「岩瀬万応膏」のほか、「トゲ抜き」の妙薬や「筋渡しの薬」があります。

